

クリーンセンター だより ＜こども版＞

発行者：津山市クリーンセンター建設事務所

かい
(津山市中北下1300 久米支所3階)

発行日：平成20年8月8日

電話：(0868)32-7017



私たちの社会は、とても恵まれています。店には多くの商品があふれ(大量生産)、欲しいものは何でも買

うことができます(大量消費)。使い捨ての品物もたくさんあります(大量廃棄)。でも、資源は限られたもので

すから、将来も安全でゆたかに生活できる社会を守っていくためには環境のことを考え、資源を節約する「じゅんかんがた社会」のしくみをつくるのが大切になってきています。

では、私たちは日々の生活の中で、何に気をつけて暮らしていけばいいのか考えてみましょう。

*1 資源(しげん) いろいろな物をつくるための材料、原料となる物質。

*2 天然資源(てんねんしげん) 自然にある、人間の生活や生産に利用できるもの・エネルギー。石油、石炭、鉄、銅など

1. じゅんかんがた社会ってなに？

*3 じゅんかん ひとめぐりして元にもどり繰り返すこと。

21世紀は「環境の世紀」と言われています。テレビでも環境についての番組が

ふ
増えてきましたね。

「じゅんかん型社会」とは、天然資源をできるだけ節約し、ごみを捨てないで

何度も資源として再利用し、環境への影響を少なくする社会のことです。その為には次のようなことが

ひつよう
必要です。



ごみをへらす工夫すること

しげん
資源を何度も使うこと

しよぶん
ごみを正しく処分すること



これらを行うことにより、天然資源のむだづかいをできるだけ節約し、環境負荷をできる限り少なくする社会のことを言います。

*4 環境負荷 人の行動により環境に与えられる影響で、環境を守る上で支障や原因となる恐れのあるもの

わたしたちの普段の生活の中にも、このような社会のしくみを作っていくことが大切です。

そのために、わたしたちは自分の出す「ごみの問題」にどう取り組んでいけばいいのでしょうか。

2.じゅんかんがた社会が大切なわけ！！

身の回りにあるすべての物は、地球のいろいろな資源しげんからできています。しかし、その資源もどんどん使えばいつかはなくなってしまいます。使い終わった物も捨てればただのごみになってしまいますが、こうしたごみの中には、資源として何度も使える物もたくさんあります。

そこで、天然資源てんねんしげんのむだづかいを減らし、環境かんきょうへの負荷ふかをできるかぎり減らしていくために、ごみを減らし、資源を何度も上手に利用し、どうしても使えないごみはきちんと処分する「じゅんかんがた社会」をつくるのが、いま、必要になっています。



津山市でも「じゅんかんがた社会」を目指めざしているいろいろな工夫がされています。「ごみ」のリサイクルがより一層いっそう進められていることもその一つです。

3. 3 R って？

スリーアール 3 R という言葉ことばを知っていますか？ 小学校 4 年生になると社会科きょうかしょの教科書で習いますが、じゅんかんがた社会を支える大切なことで、みんなも知らない間に学校や家おこなで行っていることがあります。

1) Reduce (リデュース) : 「ごみ」を出さない、無駄なものは買わない、買ったものを長く利用する
ごみになるものを買わないことで、ごみは減らすことができます。

使い捨てようきの容器いんりょうに入った食品・飲料などはあまり買わない。

詰め替えつ出来る商品かを買う。

など…



2) Reuse (リユース) : くり返し使う

ものを長く使うことも、ごみを減らすことにつながります。使わなくなったものを捨てる前に、

もう一度修理しゅうりしたり、他の人にゆずって使ってもらうなど、もう一度生いかすことです。

電気製品や家具、おもちゃなどは大事に使い、こわれたら修理して使う。

古くなった洋服を作り直したり、雑巾に利用したりする。

フリーマーケット、バザーなどで欲しい人にゆずって使ってもらう。 など…



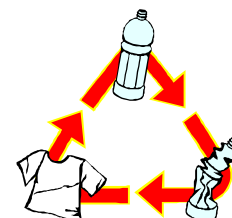
3) Recycle (リサイクル) : 資源しげんとして再生さいせいりよう利用する

製品せいひんとして利用できなくても、製品の原料げんりょうとして活用かつようできるものがあります。

ごみにするのも、資源にするのも私たちなのです。

資源となるごみの分別を徹底して、資源化しやすいようにする：廃品回収はいひんかいしゅう (資源回収しげんかいしゅう) 等

自宅でコンポストなどを利用して、生ごみを堆肥化する。 など…



また、 Refuse (リフューズ) : 不要なものを受け取らない。

Repair (リペア) : 壊れたものを修繕して使う。

を加えた5Rとする考え方もあります。

4. 津山市のごみ処理について

平成 17 年 2 月に津山市、加茂町、阿波村、勝北町、久米町は手を取り合って新しい津山市をつくりました

(市町村合併)。今、津山市で動いているごみの焼却施設(ごみを燃やす施設)は 2 箇所あります。しかし、長い間使っているため、古くなり、修理にたくさんのお金(税金)が必要になっています。

また、今まではごみをもやした後にできる灰や、リサイクルできるものを分けた後のガラスや食器などの不燃物は最終処分場に埋立をしてきました。しかし、埋めるための場所が少なくなって

きたため、津山市では、平成 14 年から焼却灰は市外へ持ち出しています。このために必要なお金が 1 年間に 1 億円以上かかっています。これも、みんなの大切なお金(税金)です。



そこで、新しい施設の建設地を決めるために、建設候補地として立候補した 9 つの地区から、大学の先生やた

くさんの大人たちに専門的に、公平な立場で話し合いをして、選んでもらいました(ごみ処理センター建設適地

選定委員会)。そして、平成 19 年 6 月に行われた会議(津山ブロックごみ処理広域化対策協議会)で「津山市

津山市、美作市、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、美咲町の各市町村長で行われる会議

5. クリーンセンターについて

クリーンセンターは津山市のごみだけを処理するものではありません。他の津山周辺の市町村と考えると、

協力し合って共同で造る施設です。では なぜ他の市町村のごみを一緒に処理するのでしょうか。(1) また、クリーンセンターにどんな施設が出来るのでしょうか。(2)

(1)なぜ他の市町村のごみを一緒に処理するのでしょうか？ <ごみ処理の広域化>

平成 9 年に国(環境省)の取り決めにより、津山・英田圏域の広い範囲(広域)で「ごみ処理」を行っていく事が決まりました。各市町村ごとにあった古い施設の利用をやめて、新たに共同で建設、利用することで **建設のお金(税金)を節約 環境への負荷総量を減らすことのできる安全な施設を建設 施設を運営、管理するお金(税金)を節約**

が出来るからです。

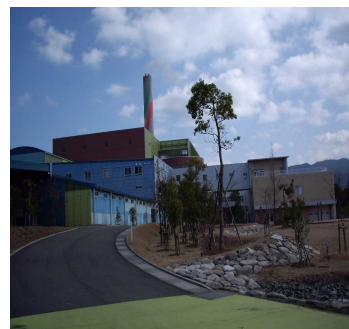
(2)クリーンセンターの施設

焼却施設: ごみを燃やし、燃やす時に出来るたくさんの「熱」や「電気」は

エネルギーとして利用していきます。(熱還元施設)

体に悪いダイオキシンなどが出ないように 800 以上の高い温度で 24 時間も燃やします。

その上、細かいフィルター(バグフィルター)で体に悪い物質をとり除きます。



<参考写真>

リサイクルセンター



家庭から出されたごみをさらに細かく、仕分けしていきます。燃えないごみとして出された中でも、危険な物や、大事な資源が混ざっていることがあります。カンやびんなどは、磁力(磁石の力)を使った機械や人の手で分けていきます。

また、みんなが体験や勉強ができる施設をめざします。

他の市のリサイクルセンターでは、ガラス工芸を作ったり、おもちゃの病院や、壊れてごみとして出されたものを修理して再利用してもらったりしています。



<参考写真>

最終処分場(うめたて地)

リサイクルや焼却をして量を減らしても、処理しきれない廃棄物を最後に処分する場所のことをいいます。安全な、ガラス類や

陶器の破片、土砂などをうめたてます。

うめたて場の下に厚いシートを敷いていますが、もし水がもれても分かるように、電気を流して、24時間監視します。施設には屋根をつけて、雨水も入らないようにします。



<参考写真>

施設のまわりのけしきや自然も大切に考えて、みんなに愛される安心で安全な施設を目標に造っていきます。また、周りには、自然公園などを整備したり、焼却施設で発生したエネルギーを有効に利用する計画もしていきます。

6. 環境アセスってなに？



どんなに良い施設であっても、計画しただけでは、造った後で自然環境や生活環境にどんな影響をあたえるのか分かりません。

環境アセスは、これから造られる施設が周辺の地域に与える影響を詳しく調べて、環境にやさしい施設を造るためにとても大切な手続きの事です。いま計画している、クリーンセンターも、秋から環境アセスの現地

調査を行います。

これから、1年間かけてクリーンセンター建設予定地とその周辺地域の自然を空気の流れ、水のように、土のようす、自然環境、車のながれなどたくさんの項目を調べます。もちろん、そこに暮らす動物や植物も調べます。調べた内容は、本にしてクリーンセンター建設予定地の近いところに住んでいる人には配る予定です。